

判定士の推移等と能登半島地震での活動状況について

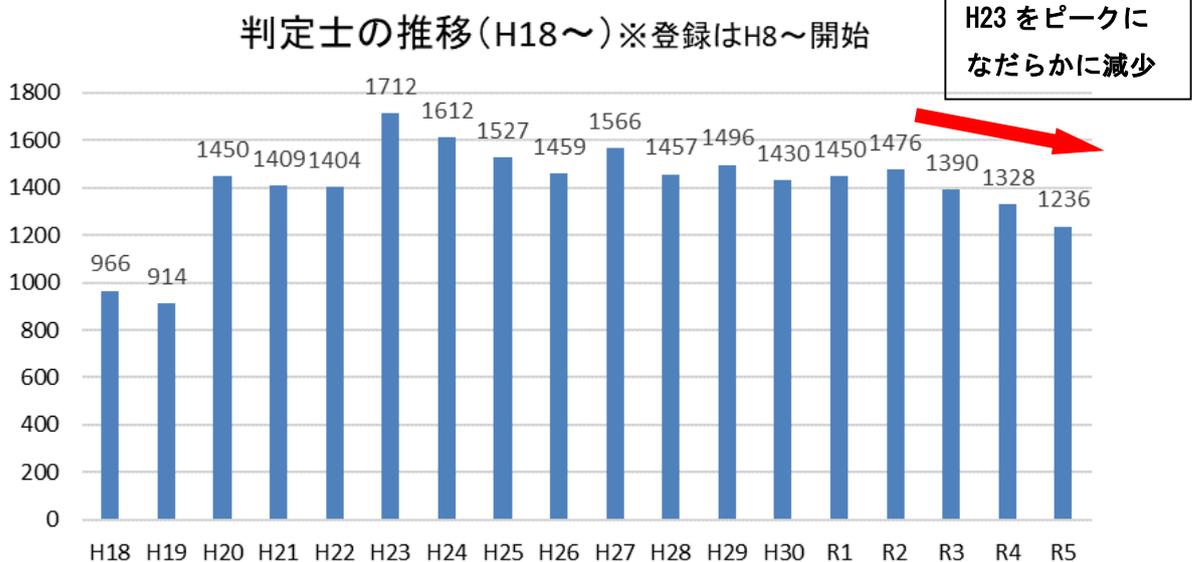
(1) 被災建築物応急危険度判定士養成講習会

- 令和6年度は県内2会場で開催予定。

	開催日	会場	定員
新潟会場	令和6年9月6日(金)	新潟県自治会館 別館3階 第1研修室	48名
長岡会場	令和6年9月11日(水)	長岡地域振興局 会議室棟2階 大会議室	50名

(2) 被災建築物応急危険度判定士の推移

- 登録者数は、1,236名(内、行政判定士数556名)(令和6年4月1日現在)
- 目標登録者数は、2,000人(ただし、現状を踏まえ、当面は1,500人維持が目標)
(新潟県被災建築物応急危険度判定業務マニュアルより)



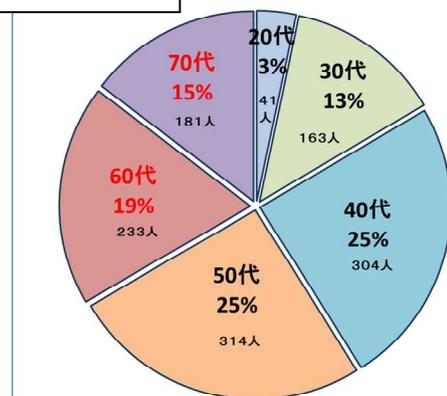
(3) 被災建築物応急危険度判定士の年代別内訳

年代(詳細)	人数	年代	人数
20~24	6	20代	41
25~29	35		
30~34	65	30代	163
35~39	98		
40~44	132	40代	304
45~49	172		
50~54	180	50代	314
55~59	134		
60~64	118	60代	233
65~69	115		
70~74	127	70代	181
75~	54		

計 1,236

平均年齢 53歳

60代以上が34%



近年は、判定士の減少と高齢化が課題となっています！
是非、若い技術者への周知をお願いします！

(4) 能登半島地震での活動状況

ア 概況

地震発生翌日の令和6年1月2日から11日まで行った。

方針	実施市町村	判定期間
点的調査 (市内全域のうち、市に相談のあった建物のみ選定)	新潟市	10日間(1月2日から11日)
	柏崎市	1日間(1月2日)
	上越市	9日間(1月2日から10日)
面的調査 (市で調査エリアを選定： 京ヶ峰地区)	糸魚川市	5日間(1月6日から10日)

イ 被災建築物応急危険度判定の結果

(件)

市町村名	表示ステッカーの種類			計
	危険(赤)	要注意(黄)	調査済(緑)	
新潟市	172	769	803	1,744
柏崎市	1	8	13	22
糸魚川市	2	63	102	167
上越市	37	36	47	120
合計	212	876	965	2,053
割合	10.3%	42.7%	47.0%	100%

ウ 判定士数(延べ人数)

(人)

市町村名	県内判定士						合計
	応援派遣判定士				計	地元市職員	
	国	県	市町村	民間			
新潟市	6	67	92	104	269	97	366
柏崎市	0	0	0	0	0	2	2
糸魚川市	0	2	0	6	8	6	14
上越市	0	0	0	0	0	38	38
合計	6	69	92	110	277	143	420